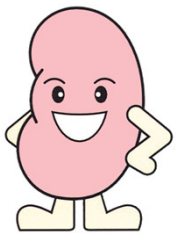


患者が治療に主体的に関わることの重要性 ～腎臓病患者さんの声から～

2020年1月27日
NPO法人腎臓サポート協会
松村満美子



慢性腎臓病とその治療

●腎臓の働き

	G1	G2	G3a	G3b	G4	G5
eGFR値*	90以上	89~60	59~45	44~30	29~15	15未満
腎臓のはたらきの程度	正常	軽度低下	軽度~中等度低下	中等度~高度低下	高度低下	末期腎不全
治療の目安		生活改善	食事療法・薬物療法		透析・移植について考える	透析・移植の準備

腎臓病の重症度は、腎臓のはたらきの程度と、糖尿病や高血圧などの腎臓病の元になっている病気、尿たんぱくの状態を合わせて評価します。

※ eGFR … 血清クレアチニン値、年齢、性別を用いて eGFR(推算糸球体ろ過量)を算出し、腎機能の指標として使用します。

参考：日本腎臓学会「CKD診療ガイド2012」

自覚症状が少なくゆっくりと進行

保存期（透析になる前）：食事療法や薬物療法

末期腎不全：血液透析や腹膜透析

慢性腎臓病は治療で完治する病気ではないため、生活を維持するために治療を継続することになります。

治療が毎日の生活に大きく関わります

NPO法人腎臓サポート協会

- 設立： 2001年10月
- 会員： 約16,000名（2019年12月末現在）

腎臓病の重症化予防、また、患者さんやご家族のQOL(生活の質)を高めるための、腎臓病および治療法に関する情報提供活動を行う団体として設立



主な活動

- WEBサイト「腎臓病なんでもサイト」の運営
- 会報「そらまめ通信」の発行(年6回)
 - 患者さんインタビュー「一病息災」
 - 医療従事者による記事「じんぞう教室」
 - レシピ など
- 疾患/治療法啓発用冊子の作成・配布
- セミナー開催
- 腎臓病相談



腎臓病患者(会員)アンケート

■目的:

患者の病気や治療に対する意識、実態を把握し、今後の情報提供のあり方を検討する。

■実施期間: 2018年10月15日～2018年11月22日

■調査対象: 2018年9月末現在 腎臓サポート協会会員 13,871名

■アンケート方法: WEB または アンケート用紙 にて回答を求めた

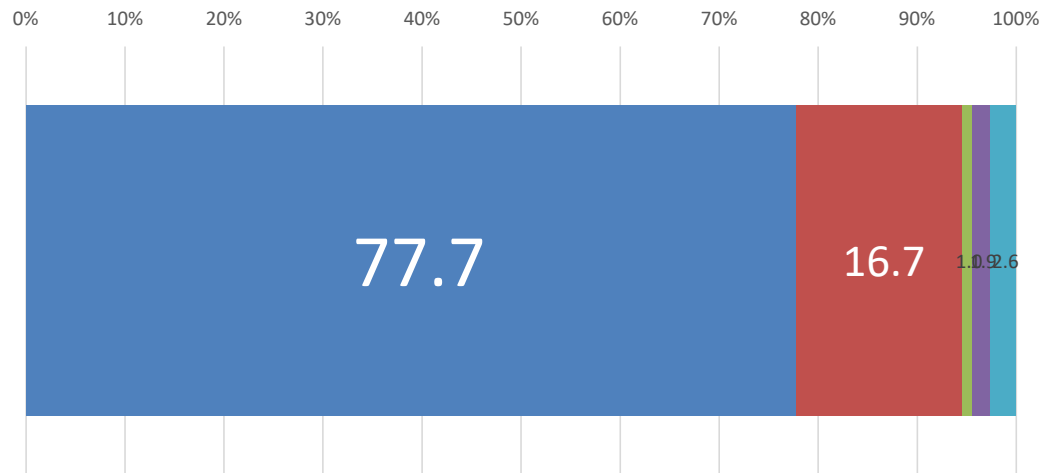
■有効回答数: 2,806件 (WEB回答: 1,200件、用紙回答: 1,606件) 回収率 約20%

※回答内容について、個人を特定できないようにして引用、結果を集計の上公表することがある旨をアンケートに記載。

回答者属性

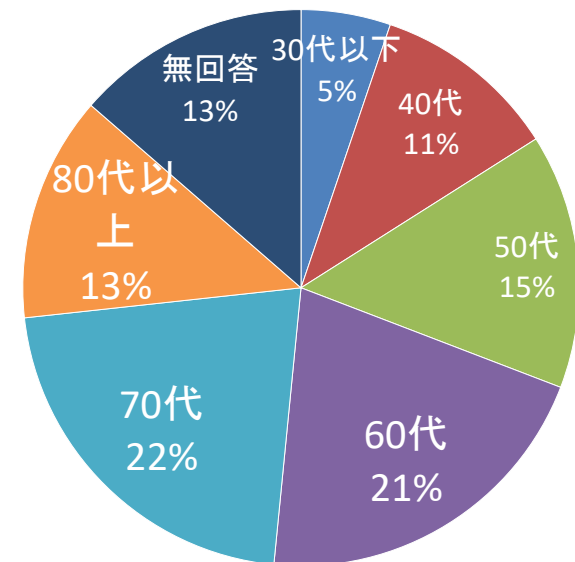
腎臓に不安をお持ちの方はどなた
ですか？ (n=2806)

■ 本人 ■ 家族 ■ 友人・知人 ■ その他 ■ 無回答



回答者の約8割が腎臓に不安を持つ本人

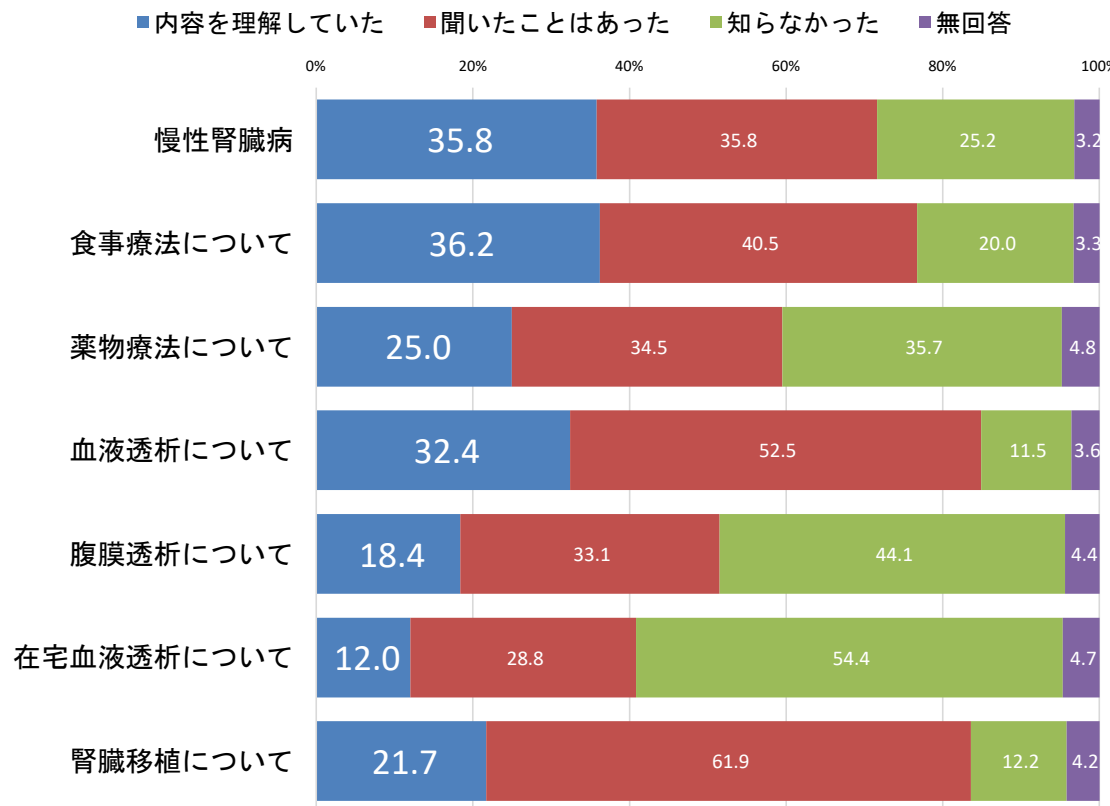
腎臓に不安を持つ方の年齢
(n=2806)



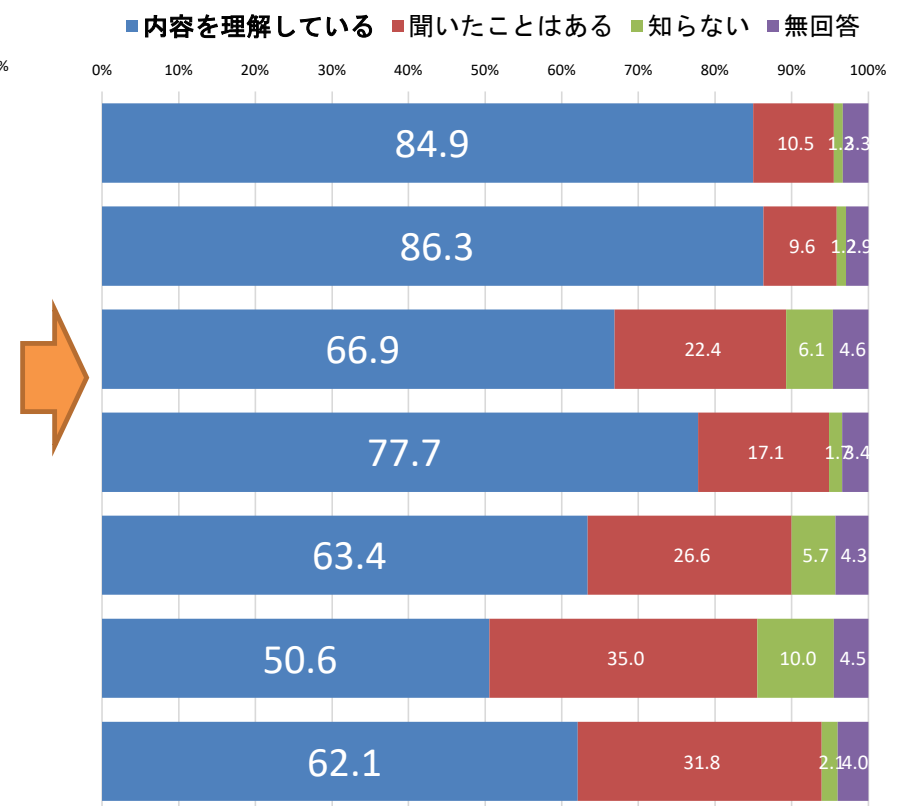
6割弱が60代以上

情報提供が果たす役割：病気や治療の理解の向上

腎臓サポート協会入会前



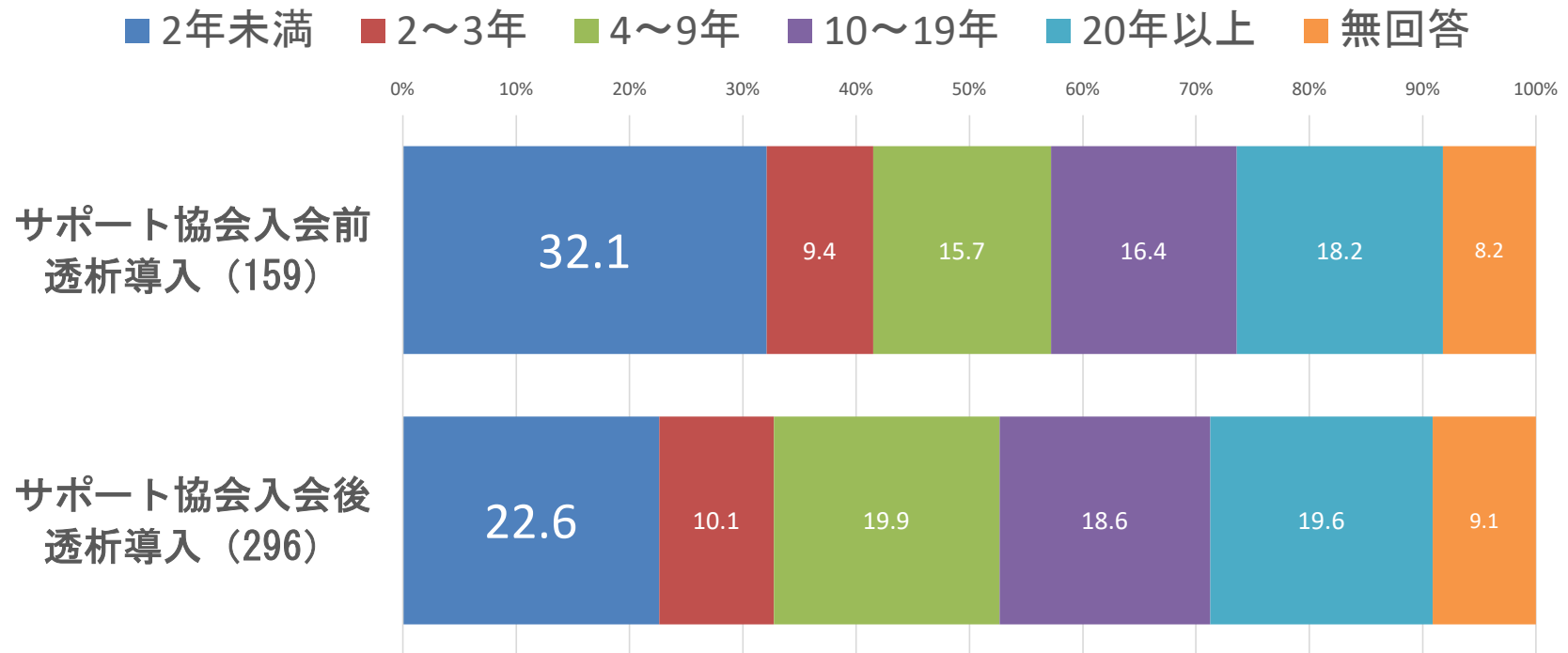
アンケート回答時



協会からの情報提供により、病気や治療への理解が向上していた

情報提供が果たす役割：腎臓病発見から透析開始までの期間

腎臓病発見から透析開始までの期間
(透析導入時期別) n=455

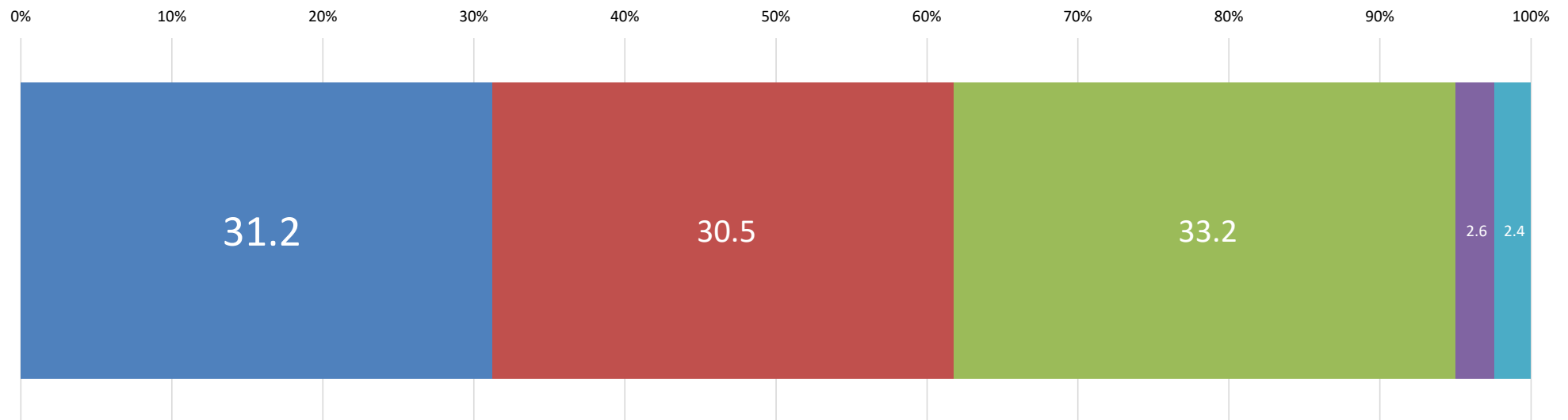


協会へ入会した後に透析導入に至った群では、2年未満の導入が少ない傾向が見られた

治療選択への患者自身の関与

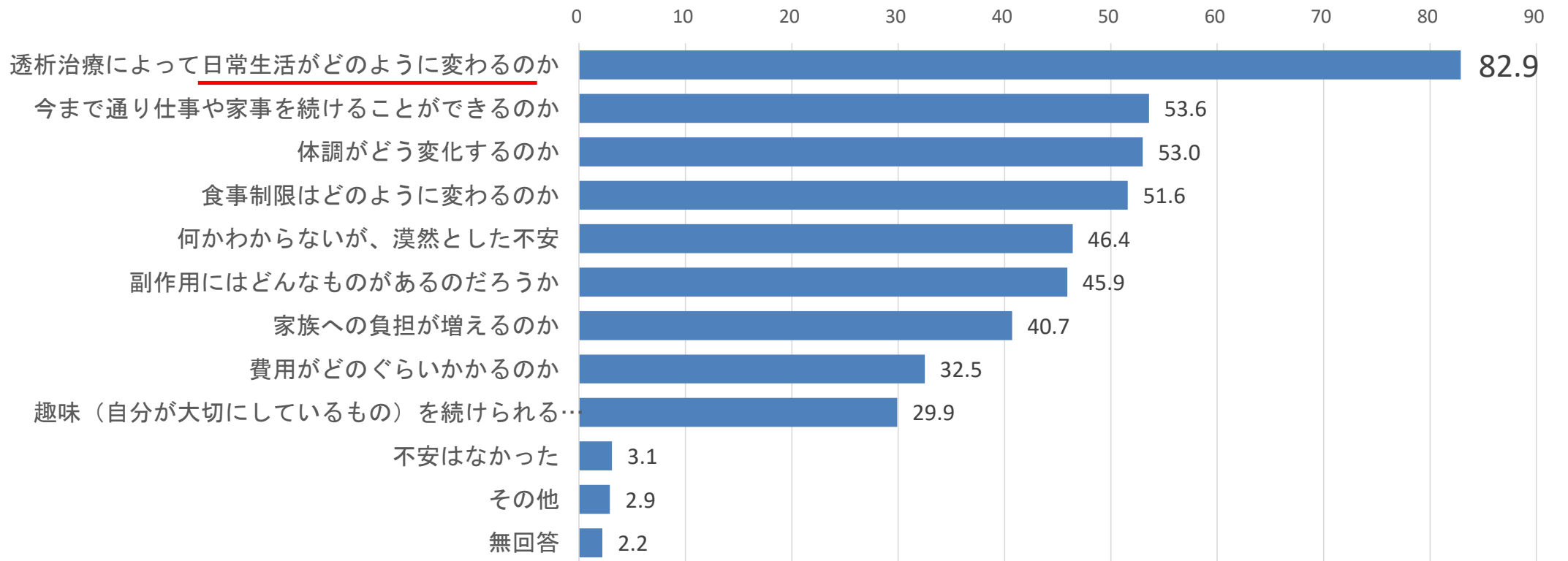
透析が必要になった時、どのように治療法を決めましたか？
(n=455:回答者本人が**透析者**)

- 医療従事者に判断に任せた
- 医療従事者の説明を聞いて、自分で決めた
- 医療従事者と相談をして、一緒に決めた
- その他
- 無回答



日常生活が変わることへの不安が大きい

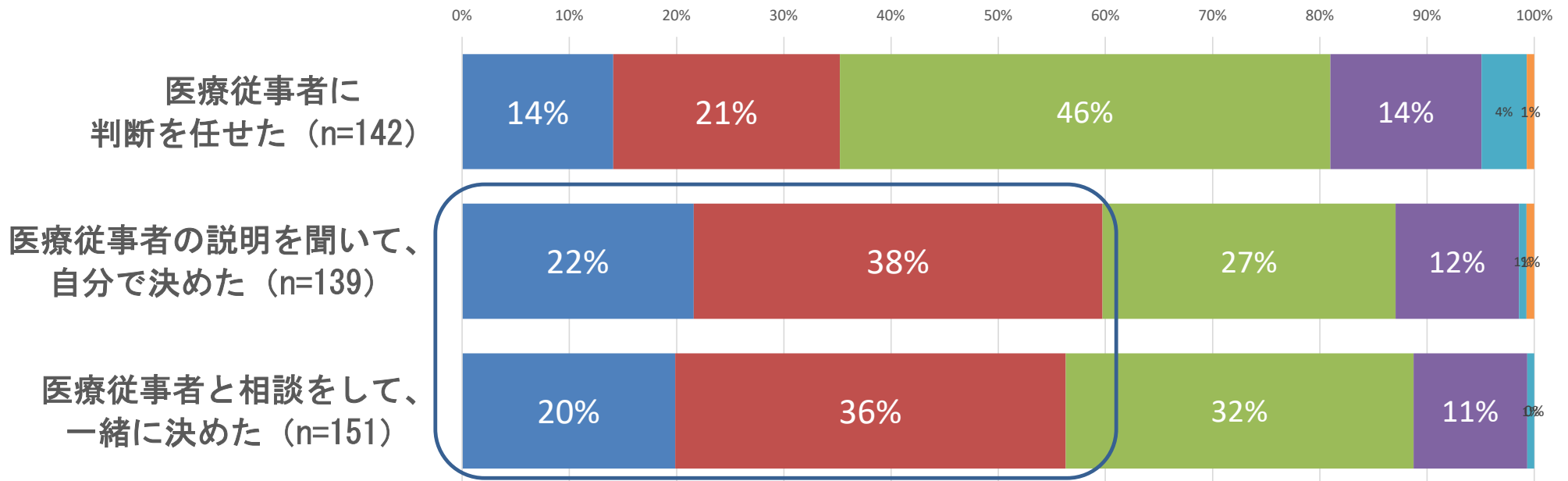
透析が必要と言われた時、不安に思ったことを教えてください
(複数回答可) n=455 (回答者本人が透析中の方)



8割を超える方が「日常生活がどう変わるのか」に不安を持っていた

治療選択の状況と導入時の不安の軽減

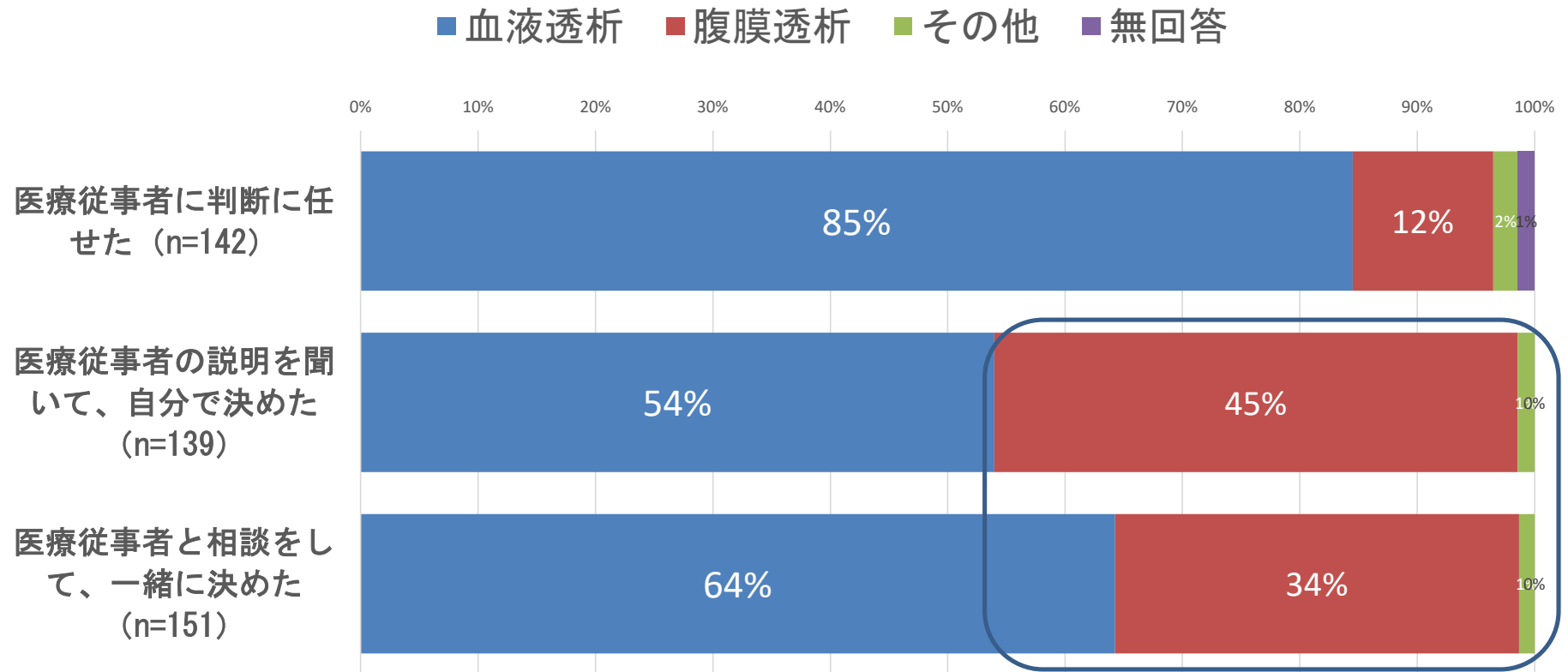
- ほぼ不安なく透析を開始した
- 不安は軽減したが、まだ少し不安が残っていた
- 不安なまま透析に入った
- 非常に不安が強いまま透析にはいった
- 最初から不安はなかった
- 無回答



回答者本人が透析中455名中決定方法「その他」=12名を除く

自分が治療選択に関わった群では、医療従事者に任せた群に比べ、不安が軽減されている割合が高い傾向が見られた

治療選択の状況と選択した治療法



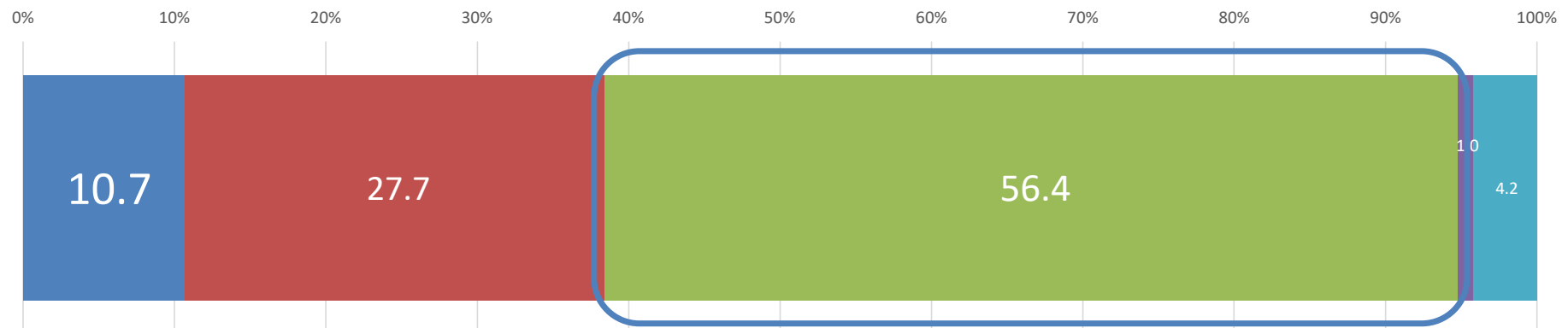
回答者本人が透析中455名中決定方法「その他」=12名を除く

自分が治療選択に関わった群では、医療従事者に任せた群に比べ、治療選択の幅が広がっていた

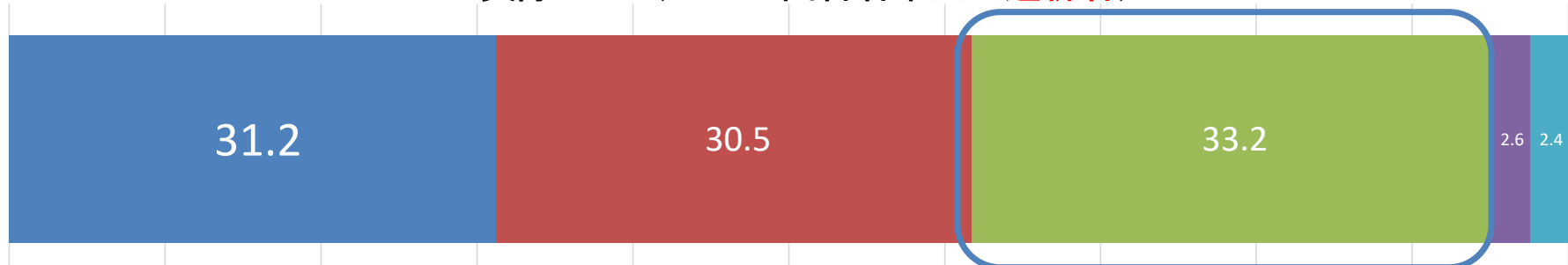
保存期患者は治療法決定に関与したいと考えている

もしも透析または移植が必要となった場合、治療についてどのように決めたいですか？（n=1103:回答者本が**保存期**）

- 医療従事者に判断を任せたい
- 医療従事者の説明を聞いて、自分で決めたい
- 医療従事者と相談をして、一緒に決めたい
- その他
- 無回答



実際は・・・（n=455:回答者本人が**透析者**）



まとめ

- 透析導入時には、不安を抱いている患者が多いが、患者自身が治療の選択に関わると、不安を軽減できている割合が増えていた
- 患者自身が治療の選択に関わることで、治療選択の幅が広がっていた
- 患者は治療法決定に関与したいと考えている

患者さんの声からわかったこと

- 透析導入時の不安を軽減するためには、Shared Decision Making (SDM)の取り組みは非常に重要と考えられます
- SDMで患者が治療選択に関わるためには、医療従事者からの働きかけとともに、患者自身が主体的に関わる気持ちを持つことが必要です

今後も、腎臓サポート協会は、継続的に適切な情報提供を行うことで、患者さんやその家族の治療と暮らしを支えてまいります。

患者さんが治療選択に関わることがあたりまえの社会に・・・